

1.平成17年 台風14号の影響による川辺川の濁水について

出典： 週間ひとよし . . . P1~2
国土交通省九州地方整備局川辺川ダム砂防事務所HP . . . P3~5

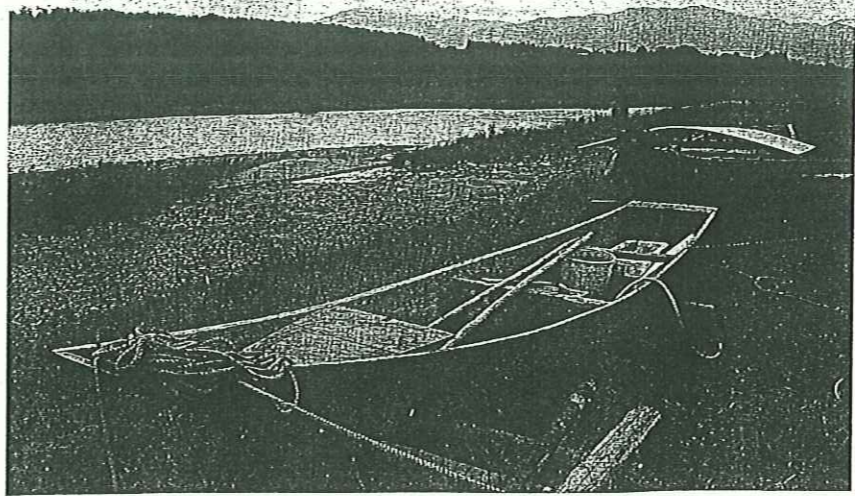
2.超過洪水時のダム操作について

出典： 河川 2007年3月号（No. 728）抜粋 . . . P6~8
国土交通省HP . . . P9

増水と濁りで漁できず！川漁師が悲鳴

6月のアユ入荷、わずかに73キ

「アユが捕れない。川の濁りをなんとかして！」。6月1日に解禁されたアユ漁



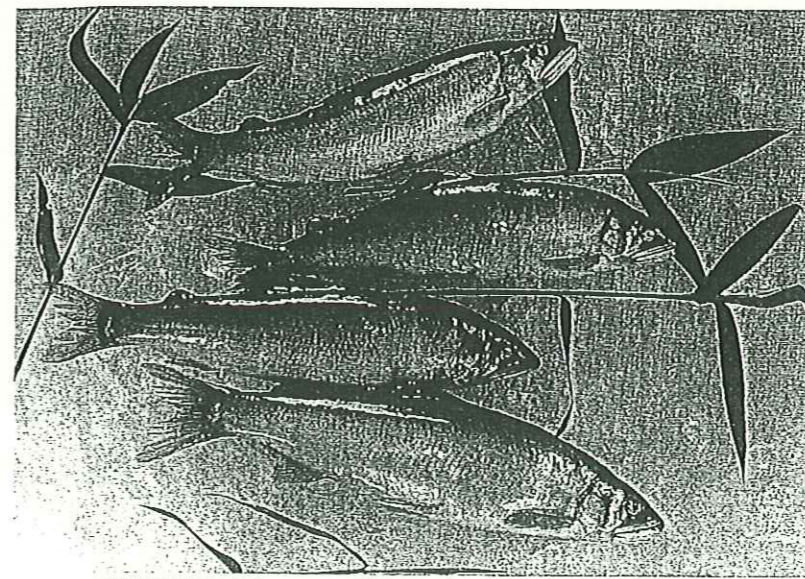
増水と濁水が続いて漁ができず、陸に揚げられたままの川舟

ず、川漁師たちは悲鳴を上げています。

球磨川、川辺川とも、1日の解禁日は天候に恵まれたこともあって、各地からアユ釣りファンが竿を出し、釣果もまずまずで順調な滑り出しが見えた。

しかし、全国からアユの注文が届いていた人吉冷蔵には、2日朝10キ入荷しただけで、昨年の約90キには到底及ばず、今シーズンの先行きを暗示しているかのようだった。

昨年9月の台風14号にもなう大雨で、両河川の源流部に大規模な山腹崩壊が発生。国土交通省によると、川辺川には推定で約120万立方メートルの土砂が流れ込み、上流の河岸に堆積した土砂が、まとまった雨降るたびに流れ出て濁りを引き起こしているという。



解禁当初には美しいアユが捕れたが…(くま川おとり鮎店提供)

は良型が釣れたという。

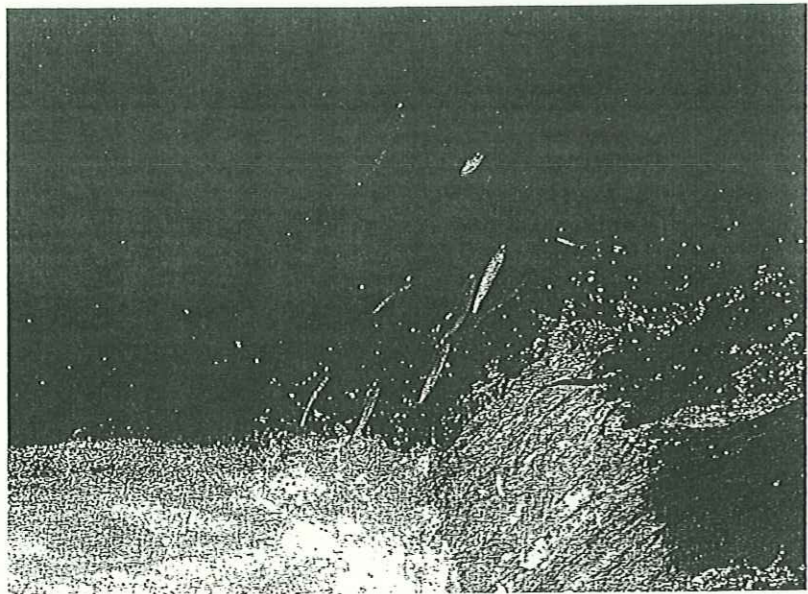
しかし、人吉で日雨量101.5ミを記録した15日以降はどの河川も増水とともに濁水が発生し、以降はほとんど毎日雨が降って漁どころではなかった。

各おとり鮎店も開店休業の状態、全国の釣りファンから入る問い合わせの電話応対に大わらわ。「解禁日から数日はよかったが、その後はまったく釣りにな

総放流数はここ10年間で最低

今年の稚アユ176万匹、濁りが原因？

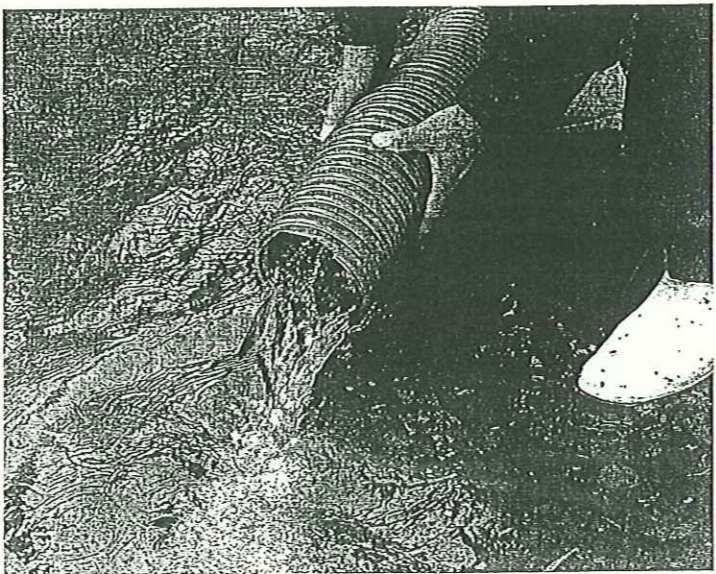
球磨川のアユ漁は6月1日から解禁されるが、今シーズンは釣り人や漁師、問屋など関係者の間に大きな不安



八代市の球磨川堰で、上流をめざす天然稚アユ

82万9千匹で、この10年間で最低だった。原因について同漁協関係者は「昨年9月の洪水で産卵直前のアユが下流に流されてしまったことや、川の濁りが長期化していることなどが考えられる」という。今シーズンのすくいあげは3月23日から5月16日まで行われ、組員15人が交代で作業にあたった。型はまずまずだったものの、当初から数は少なく、「やっぱり…」と先行きを暗示しているようでもあった。

川辺川、球磨川の原流域で大規模な山腹崩壊や河岸崩壊が発生し、1カ月以上濁りが治まらなかったこともあり、河床の石に泥が付着してアユのエサになる苔が育たっていない。



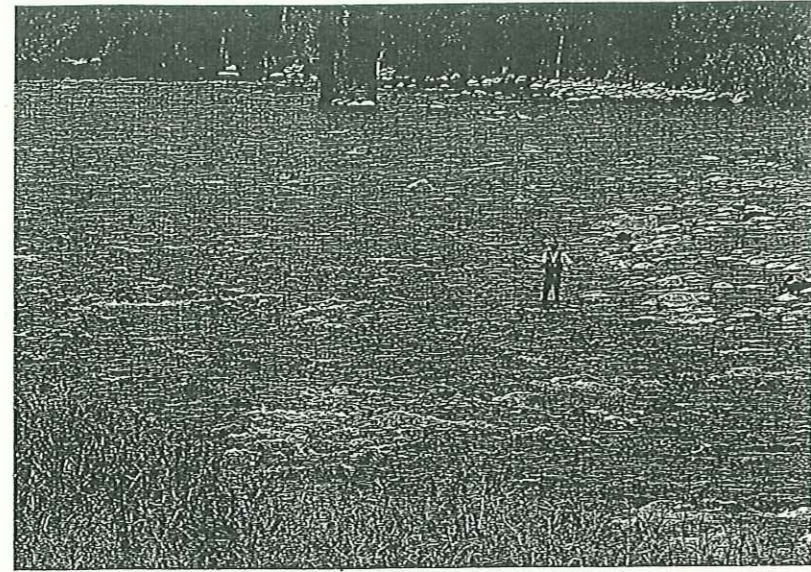
川辺川に放流される稚アユ

ア ユ

入荷なく地元経済への影響じわじわ

7月はゼロ、増水・濁水で漁できず

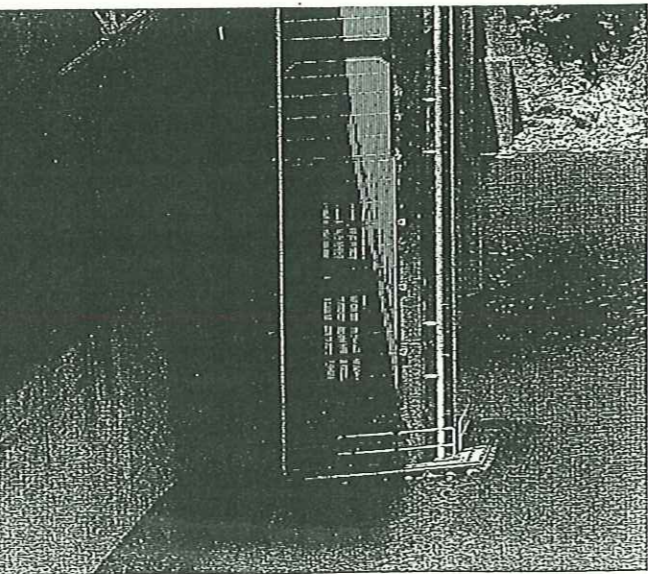
「6月16日から入荷はゼロ。7月に全く入荷がなかったのはこれまでで初めて。天然アユを扱って約50年になる人吉水産商事株式会社代表取締役



濁りが治まっても竿を振る釣り人はまばら (8月16日、相良村で)

の山賀勝彦さんは、鮎の入荷量が少なくなっていること数年を振り返りながら「球磨川も川辺川もすっかり変わってしまっただけで、天然鮎を楽しみにしておられる全国のお客様の要望に答えられなくなっている」と表情を曇らせた。昨年9月の台風14号がもたらした大雨で、川辺川と球磨川の源流部で大規模な山腹崩壊が発生して以来、まとまった雨の降るたびに濁りが発生するようになった。2週間以上濁りが続くことも珍しくなく、清流のイメージではなくなった、という人もいる。

濁りに含まれる微粒子の土が、川底の石にノロ状に付着してアユの餌となる苔の生長を阻み、必然的にアユの育成に大きな影響を及ぼしている。アユ漁が解禁された6月1日の翌朝、同社には10キの入荷したものの、雨による増水・濁水が続いて漁ができず、6月16日から7月末までは全く入荷がなかった。



ダム湖の上層部から澄んだ水を取り下流に流す「温水取水塔」

市房ダムが上層部取水で濁度軽減へ

一方で、濁りを少なくするため、県営市房ダムは、濁度の少ないダム湖上層部から取水し、下流に放流する試験運用を始めた。

市房ダムは通常、本体中央にある取水口から発電用、農業用を取水して放流しているが、上層部に比べて濁度が高く水温も低い。今回の試験運用は、稲に冷たい水が行かないよう10年前

まで使われていた「温水取水塔」を活用。3四方の遮水パネルを「コ」の字型に3方向から5段ずつ積み重ね、約15以上から取水する形にした。

8月14日から試験放流を始めており、下流3カ所で濁度を計測し、効果が高ければ恒常的に活用していく。同ダムでは「これまでよりもかなりの濁度を少なくすることができているのか」と話している。